

子育て支援の充実に関する提言書

令和3年3月

喜多方市議会文教厚生常任委員会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	取組経過・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3	現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4	委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(1) 先進地視察・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(2) 市内行政視察・・・・・・・・・・・・・・・・	10
	(3) 意見交換会・・・・・・・・・・・・・・・・	12
5	提 言・・・・・・・・・・・・・・・・	15
6	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	参 考・・・・・・・・・・・・・・・・	18

1 はじめに ～提言にあたって～

近年、本市を含む多くの自治体においては、少子高齢化や核家族化の進行、地域におけるつながりの希薄化や就労形態の変化など、子育て家庭を取り巻く環境は以前と比べ大きく変化し、子育てをする上で、負担、不安、孤立感など、様々な問題を抱えています。

本市の最上位計画である総合計画においては、大綱3の第1節において、目標を「子育て環境の整備と切れ目のない子育て支援により、安心して子どもを産み・育てることができるまちを目指します。」としており、各施策の内容を掲げています（図1）。

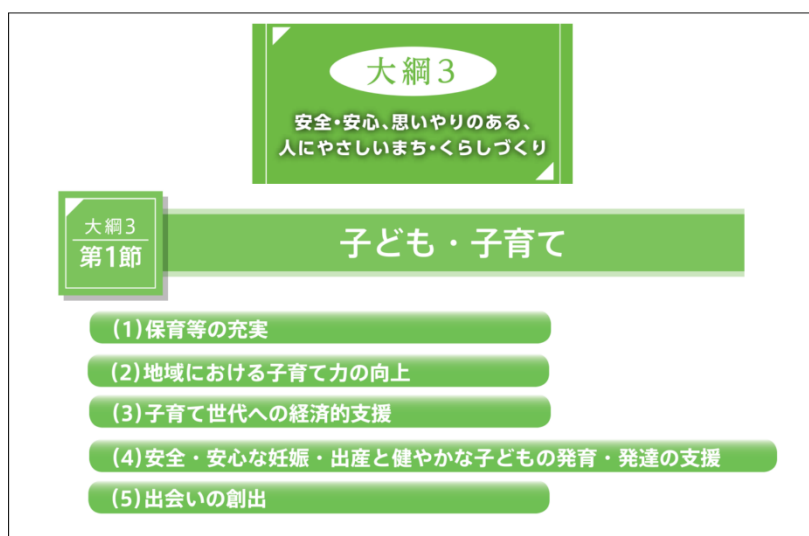


図1 喜多方市総合計画 大綱3第1節

総合計画の進捗管理の目的で毎年度市が実施している行政サービスの満足度・重要度のアンケート調査結果によれば、「子育てしやすい環境の整備」における重要度は例年上位となっている反面、満足度はそれほど高くないといった状況です（図2-1、図2-2参照）

※1。

これらのことを踏まえ、本常任委員会において、令和元年度から令和2年度の2年間の研究テーマとして、「子育て支援の充実」をメインテーマに、令和2年当初からのコロナ禍という制約はありましたが、「子育て支援施設の整備について」「こどもの居場所づくりについて」「市民による子育て支援活動について」「私立保育施設について」「熱塩加納方式学校給食の全市的な展開について」といった観点から調査、研修、意見交換会などを実施してまいりました。

満足度の順位

大綱	項	目	R1		H30	H29
4-5	地球環境にやさしいまちづくりについて	1	63.4	—	1	62.6
3-5	自然災害や火災などの防災対策について	2	60.3	↑	6	55.9
2-2	生涯学習に参加する機会について	3	58.5	↑	4	57.4
2-5	文化財や蔵などの保護・保存や利活用について	4	58.4	↓	3	58.0
3-2	健康づくりや病気の予防対策の推進について	5	58.2	↓	2	59.0
2-3	スポーツ活動に参加する機会について	6	58.0	↓	5	56.9
1-5	観光の振興について	7	57.9	↑	11	54.3
3-6	交通安全や防災対策などの安全・安心なまちづくりについて	8	57.6	↑	13	54.0
2-1	学校教育の充実について	9	57.0	↓	7	55.5
3-9	生活排水などの汚水処理対策について	10	56.3	↑	12	54.1
4-4	環境の保全や市の景観について	11	55.9	↑	15	52.7
3-1	子育てしやすい環境の整備について	12	55.8	↑	17	49.4
4-3	国際交流・地域間交流（連携）の推進について	13	55.3	↓	8	54.9
2-4	文化芸術に接する機会について	14	53.7	↓	10	54.6
4-1	住民と行政との協働によるまちづくりについて	15	53.4	↓	14	52.9
3-4	障がい者や高齢者などのための福祉サービスについて	16	52.1	—	16	50.3
3-8	公園の整備について	17	51.2	↑	19	46.4
2-6	男女共同参画の推進について	18	50.3	↓	9	54.9
3-7	道路環境等の整備について	19	49.1	↑	22	42.9
4-2	移住・定住の促進について	20	48.7	↓	18	46.8
3-3	病院などの地域医療体制の充実について	21	47.4	↓	20	45.9
1-1	農林業の振興について	22	46.2	↓	21	44.2
3-11	住宅や住環境の整備について	23	41.9	—	23	37.9
1-2	商業の振興について	24	37.4	—	24	37.0
3-10	公共交通機関の利用環境について	25	37.4	—	25	36.8
1-4	市内における就業の機会や就業支援について	26	34.9	—	26	33.9
1-3	工業の振興について	27	33.7	—	27	33.8

図2-1 令和元年度 喜多方市の行政サービスに対する満足度・重要度アンケート調査結果

重要度の順位

大綱	項	目	R1		H30	H29
3-3	病院などの地域医療体制の充実について	1	91.7	—	1	90.2
3-1	子育てしやすい環境の整備について	2	90.7	—	2	89.9
2-1	学校教育の充実について	3	90.6	↑	4	88.2
1-4	市内における就業の機会や就業支援について	4	89.6	↑	5	88.1
3-4	障がい者や高齢者などのための福祉サービスについて	5	88.7	↑	6	87.3
3-5	自然災害や火災などの防災対策について	6	88.7	↓	3	88.2
3-2	健康づくりや病気の予防対策の推進について	7	87.8	↑	8	86.6
3-6	交通安全や防災対策などの安全・安心なまちづくりについて	8	87.6	↓	7	86.8
4-5	地球環境にやさしいまちづくりについて	9	84.5	—	9	84.5
3-9	生活排水などの汚水処理対策について	10	84.5	↑	13	83.7
3-7	道路環境等の整備について	11	84.4	—	11	84.2
1-3	工業の振興について	12	84.4	↓	10	84.3
1-1	農林業の振興について	13	83.2	↓	12	83.8
1-5	観光の振興について	14	81.9	—	14	82.7
1-2	商業の振興について	15	81.4	—	15	81.7
3-10	公共交通機関の利用環境について	16	80.7	↑	19	78.2
3-11	住宅や住環境の整備について	17	79.0	—	17	78.7
4-4	環境の保全や市の景観について	18	78.6	↓	16	79.4
4-2	移住・定住の促進について	19	78.4	↓	18	78.5
4-1	住民と行政との協働によるまちづくりについて	20	76.7	—	20	77.3
2-5	文化財や蔵などの保護・保存や利活用について	21	76.4	—	21	74.9
2-2	生涯学習に参加する機会について	22	75.0	↑	23	72.8
3-8	公園の整備について	23	73.5	↓	22	73.6
2-3	スポーツ活動に参加する機会について	24	72.2	—	24	72.7
2-4	文化芸術に接する機会について	25	71.2	—	25	71.7
2-6	男女共同参画の推進について	26	70.6	—	26	69.8
4-3	国際交流・地域間交流（連携）の推進について	27	65.4	—	27	62.3

図2-2 令和元年度 喜多方市の行政サービスに対する満足度・重要度アンケート調査結果

※1：令和2年度の調査結果では、満足度は22位／27位、重要度は2位／27位となっています（「総合計画の進捗状況について」より抜粋）。

2 取組経過

【政策提言に向けた主な活動内容（令和元年度～令和2年度）】

※政策提言に関わる部分のみ記載

No.	年月日	内容	
1	令和元年 6月17日	所管事務調査	【木'S(キッズ)保育園訪問】 木'S(キッズ)保育園の施設見学及び喜多方市立松山小学校のエアコン設置に係る現地視察を実施
2	令和元年 7月23日 ～ 7月25日	行政視察	①河内長野市 総合的な子育て支援を行っている子ども・子育て総合センター「あいっく」を視察し、その取組を本市施策の参考とするため研修を実施した。 ②大和郡山市 独自の学習カリキュラムによって、不登校児童生徒に新たな学びの場を提供している学科指導教室「ASU」の取組を本市施策の参考とするため研修を実施した。 ③野洲市 市直営で自立支援相談、家計相談事業を実施するとともに、くらし支えあい条例、債権管理条例等に基づき、関係各課が連携した先進的な取組、仕組みづくりを展開していることから、本市施策の参考とするため研修を実施した。
3	令和元年 8月5日	委員会協議会	【文教厚生常任委員会の研究テーマの検討】 「子育て支援に関するもの」「出生率向上に関するもの」「学校給食に関するもの」が候補として挙げられた。
4	令和元年 9月5日	委員会協議会	【文教厚生常任委員会の研究テーマの決定】 前回の挙げられた3つのテーマについて、喜多方市の行政サービスに対する満足度・重要度アンケート調査結果を分析しながら、研究テーマの再検討を行った。 アンケート結果を考慮し、「子育て支援の充実」を大きなテーマとし、子育て支援関連として食育もその中に含めることとした。
5	令和元年 10月11日	行政調査(市内)	【子どもの居場所「れんが」視察】 子どもの貧困、不登校、ひきこもり等、様々な問題を抱える子どもたちに居場所、食事、学習支援等を提供している子どもの居場所「れんが」の取組について視察等を実施した。
6	令和元年 11月14日	議会と市民の意見交換会	「子育て支援の充実」をテーマに意見聴取を行い、当局の所管する部署にその内容の共有を図った。
7	令和2年 1月17日	行政調査(市内)	【おもちゃ図書館】 子供たちの人間性豊かな成長を支援する取組やその保護者間の交流の場を提供している「おもちゃ図書館」の取組について研修を行った。 また、利用されている保護者の方々との意見交換を実施することにより、保護者が抱える子育て等に関する課題等を聞き取り、現状の把握を行った。
8	令和2年 11月26日	委員会協議会	意見交換会及び行政調査の実施について協議
9	令和2年 12月11日	委員会協議会	【意見交換会(喜多方市家庭教育支援チーム”もも”)】 喜多方市家庭教育支援チーム”もも”の方々をお呼びし、これまでの活動や市に望むことを中心に意見交換会を実施。
10	令和2年 12月11日	委員会協議会	【意見交換会(私立保育施設関係者)】 私立保育施設関係者の方々をお呼びし、「保育施設の定員と保育士の確保について」、「喜多方市の子育てとしての保育環境の充実のための施策について」といったテーマで、意見交換会を実施。
11	令和2年 12月17日	行政調査(市内)	【熱塩加納方式学校給食の研修】 熱塩小学校を訪問し、熱塩加納方式の学校給食について、校長及び熱塩加納学校給食共同調理場の所長、主任栄養士より説明していただき、給食を試食させていただいた。
12	令和3年 2月9日	委員会協議会	提言書の内容の協議(1回目)
13	令和3年 2月18日	委員会協議会	提言書の内容の協議(2回目)
14	令和3年 2月24日	委員会協議会	提言書の内容の協議(3回目)

3 現状と課題

(1) ひとづくり・交流拠点複合施設について

先般、ひとづくり・交流拠点複合施設（第一期施設）の管理運営計画（案）が示され、子育て関係の部分では、「屋内子ども遊び場」「子育て支援ルーム」「子どもの生活学習支援ルーム」「相談ルーム」を整備する予定とのことでした。子育て世代はもちろん、地域全体で子育てをする機運が醸成されるような施設となるよう期待します。地域で子育て支援活動をされている方々からは、行政との連携強化を望む声も強く、そのような取組も必要です。

また、我々が視察させていただいた大阪府河内長野市立子ども・子育て総合センター「あいっく」は、直営での運営ということでした。ひとづくり・交流拠点複合施設では、子育て支援に係る事業に関して、業務委託方式を考えているということでしたが、なかなか業務委託になじまない分野もあるかと思われますので、熟慮くださるようお願いします。

(2) 私立保育施設について

本市では、平成 29 年より、保育士の人材確保対策を推進し、待機児童の解消を図る目的で、私立保育施設保育士等処遇改善事業を行っていますが、私立保育施設における保育士の確保がなかなか難しい状況です。加えて、定員割れも深刻な状況です。

また、施設の運営において、今後事業を拡大するか、縮小するか、老朽化した施設の増改築等の判断も不透明な状況であるという声もあります。

さらに、依然として残っている公立と私立間の格差、保育需要の変化に配慮した支援が課題であると考えます。

(3) 熱塩加納方式学校給食の全市的な展開について

熱塩加納方式の学校給食の全市的な展開を目指すにあたって、規模、生徒の数、農薬の使用の有無、作物の品目、地域の成り立ちなどの制約があり、まずは地元農産物の使用率を上げることを目標に本市では取組を行っています。

現在、本市は県内でも高い水準にありますが、生産者の会の会員数が伸び悩んでいるということが課題となっています。また、地元農産物の使用率向上という取組に加え、熱塩加納方式の学校給食の取組について、さらに応用できる部分についても検討が必要であると考えます。

4 委員会の取組

(1) 先進地視察

本委員会においては、所管する事業や先進的な事業を展開している自治体への視察を実施し、それぞれの地域課題の解決に向けた特色のある事例を学んできたので、その先進事例の取り組みを紹介させていただきます。

ア 河内長野市立子ども・子育て総合センター「あいっく」(大阪府河内長野市)

子どもたちが「わくわく」できる施設、そして、来館した子どもやその保護者に対して「福祉」及び「教育」のそれぞれの狙いへとつなぐこと、また、地域や市民とのつながりを大事にしながら運営し、子どもを地域全体で守り、育んでいくという考え方をコンセプトに、「あいっく」は、「子育て支援事業」「幼児健全発達支援事業」「家庭児童相談室事業」「ファミリーサポートセンター事業」「一時預かり事業」「子ども交流ホール管理・運営事業」の6事業を1つの施設に集約することにより、効率的かつ効果的な事業展開をされています。

学んだ特徴的な点は以下のとおりです。

- ・虐待防止が施設の究極の目的であり、継続して見守る必要性から委託や指定管理は馴染まないということで、直営で運営されていました。
- ・相談のあった家庭の些細な情報を「カルテ」と呼ばれる日誌で管理し、その情報が必要になったときには、その履歴から情報を拾い上げるといった児童虐待を未然に防ぐ取組が行われていました。
- ・深刻な相談の場合を考えて、人と顔を合わせないような動線が考えられていました。

～子ども・子育て総合センターあいつくの機能と施策について～

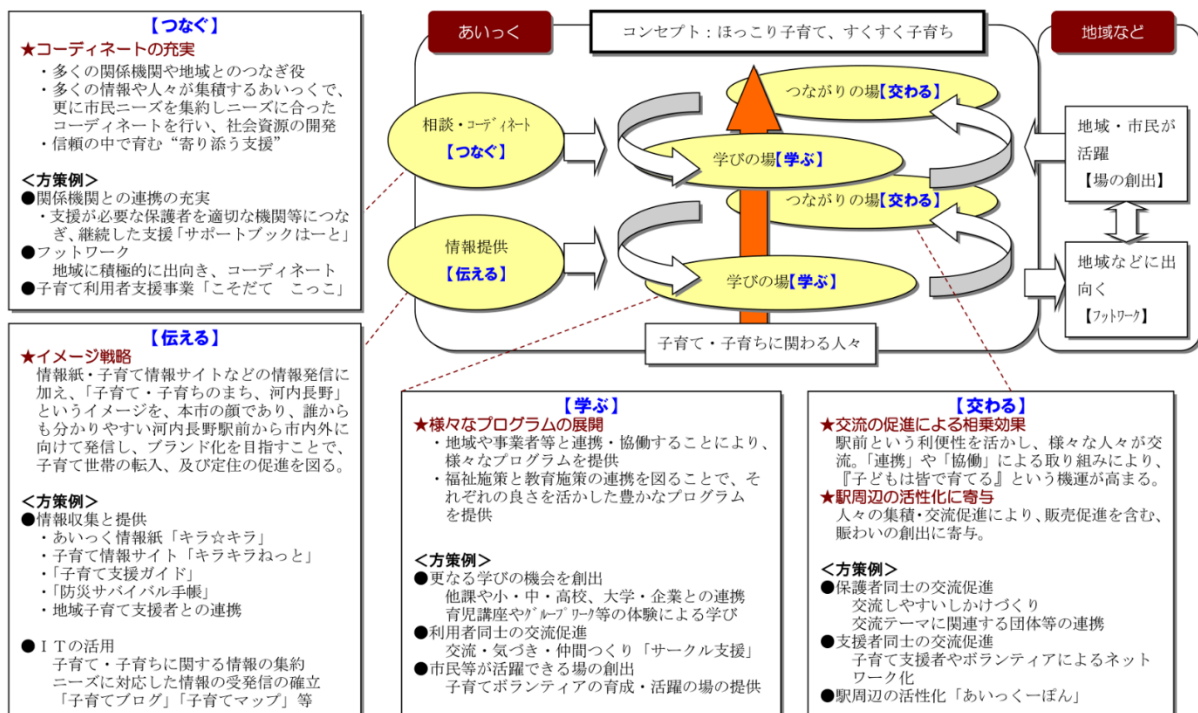


図3 子ども・子育て総合センター「あいつく」概念図（河内長野市視察資料から引用）

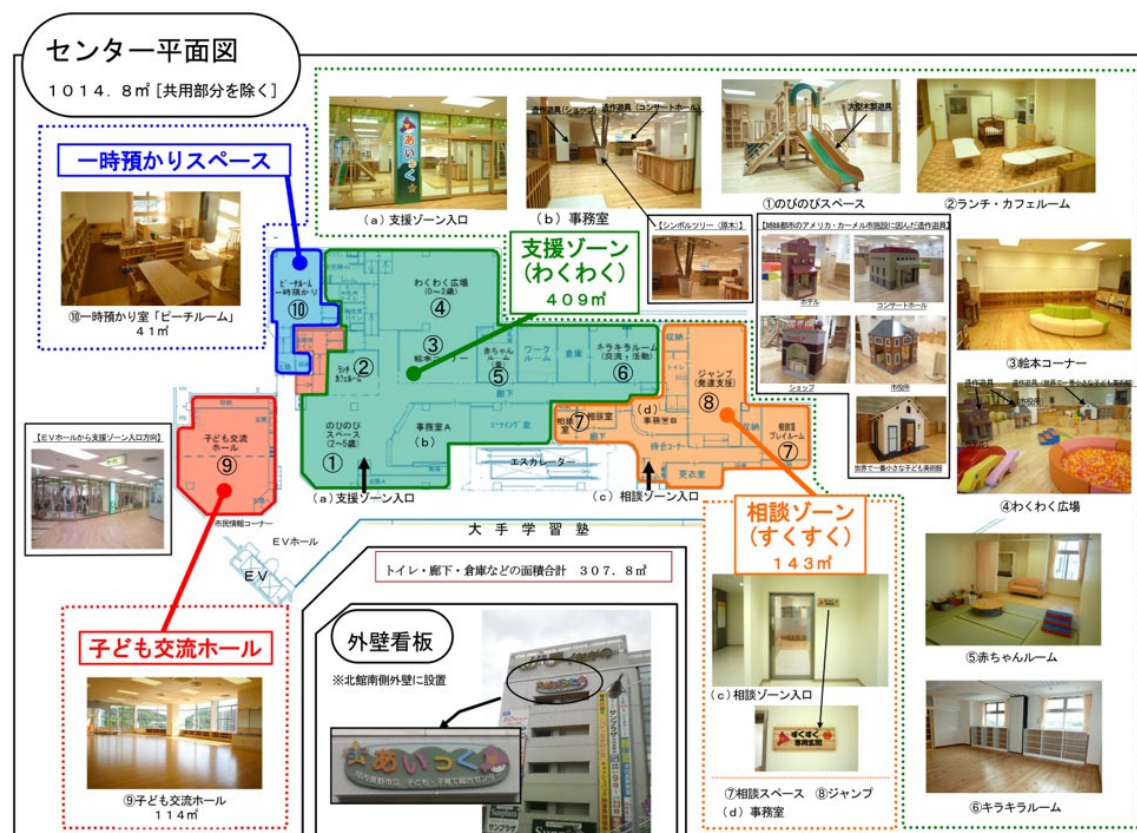


図4 子ども・子育て総合センター「あいつく」平面図（河内長野市視察資料から引用）

イ 大和郡山市 学科指導教室「ASU」 不登校対策総合プログラム（奈良県大和郡山市）

不登校児童生徒の支援を目的に、構造改革特別区域計画において、学科指導教室「ASU」を設置し、独自の学習カリキュラムによる「教育課程の弾力化」「市費負担常勤職員の配置」などを行い、不登校児童生徒に新たな学びの場を提供していました。また、その他の特色としては、カウンセラーによる心理的な支援、大学生との連携による学習支援協力、ASU作成の調査書で高校受験が可能とのことでした（平成 17 年度入試～）。

学んだ特徴的な点は以下のとおりです。

- ・卒業生の大多数が高校へ進学されておりました（図 5－1、図 5－2）。
- ・独自の学習カリキュラムが展開されておりました（図 6）。
- ・月曜日と金曜日の午後に「あゆみルーム」という、午後 1 時から午後 3 時までの 2 時間、1 人 1 時間を目途にスタッフが対応し、話をしてもらい、ゲームをしてもいいし、家から出る第一歩目の場所も提供しているとのことでした。

在籍児童生徒数の推移

・平成 19 年度	小学生 1 名、	中学生 2 6 名	計 2 7 名
・平成 20 年度	小学生 1 名、	中学生 2 4 名	計 2 5 名
・平成 21 年度	小学生 1 名、	中学生 1 7 名	計 1 8 名
・平成 22 年度	小学生 1 名、	中学生 1 8 名	計 1 9 名
・平成 23 年度	小学生 3 名、	中学生 2 1 名	計 2 4 名
・平成 24 年度	小学生 3 名、	中学生 2 1 名	計 2 4 名
・平成 25 年度	小学生 2 名、	中学生 1 9 名	計 2 1 名
・平成 26 年度	小学生 2 名、	中学生 1 8 名	計 2 0 名
・平成 27 年度	小学生 3 名、	中学生 1 6 名	計 1 9 名
・平成 28 年度	小学校 4 名、	中学生 1 9 名	計 2 3 名
・平成 29 年度	小学生 1 名、	中学生 2 4 名	計 2 4 名
・平成 30 年度	小学生 1 名、	中学生 2 3 名	計 2 4 名
・令和 元年度	小学生 0 名、	中学生 1 8 名	計 1 8 名（R1.7.1 現在）

図 5－1 在籍児童生徒数の推移（大和郡山市視察資料から引用）

(卒業生の進路)

・平成18年度	9名	全員進学	(公立4名、私立5名) (うち6名高校卒業、2名中退、1名逝去)
・平成19年度	14名	全員進学	(公立9名、私立5名) (うち11名高校卒業、3名中退)
・平成20年度	10名	全員進学	(国公立7名、私立3名) (うち8名高校等卒業、2名中退)
・平成21年度	10名中9名が進学	(公立8名、私立1名)	残り1名も22年度公立高校に進学 (うち9名高校等卒業、1名中退)
・平成22年度	8名	全員進学	(公立4名、私立4名)
・平成23年度	14名中13名進学	(公立9名、私立4名)	
・平成24年度	5名中4名進学	(公立3名、私立1名)	
・平成25年度	10名中9名進学	(公立7名、私立2名)	
・平成26年度	8名	全員進学	(公立5名、私立3名)
・平成27年度	5名中3名進学	(公立1名、私立2名)	
・平成28年度	11名	全員進学	(公立11名)
・平成29年度	10名	全員進学	(公立7名、私立3名)
・平成30年度	9名	全員進学	(公立5名、私立4名)

図5-2 卒業生の進路 (大和郡山市視察資料から引用)

図6 ASU独自の教科 (大和郡山市視察資料から引用)

(1) わくわくタイム

自然体験や勤労生産活動などの様々な体験活動、調理実習や製作活動等を通して、児童生徒が心を動かし活動できる力を育成したり、情報活用能力を育成することを目指した時間

(2) いきいきタイム

音楽や美術など、芸術の分野での表現や鑑賞を通じた学習を行い、芸術の美しさに触れ、表現能力の向上と感性豊かな児童生徒を育成することを目指した時間

(3) スポーツタイム

体力の向上やコミュニケーション能力の向上を図ることを重視した活動を行う時間
市立体育館や近くの公立高校のグラウンドを利用することもある

(4) チャレンジタイム 及び 選択チャレンジ

児童生徒が意欲を持って学習できるよう、自分で計画を立て、得意な教科や学びたい学習に主体的に取り組む時間

(5) あゆみタイム

子どもたちが自分自身を見つめたり、自分や他人と語り合ったりする活動を通して、自己認知や他者認知を深め、「生きる」という課題に向かう力を育成することを目指す時間
「ASU」カウンセリングステーションの臨床心理士とのチームティーチングによる授業を行っている

(2) 市内行政視察

ア 子どもの居場所「れんが」

令和元年10月に、子どもの貧困、不登校、ひきこもり等の様々な悩みを持った子どもたちに、居場所、食事、学習支援等を提供している子どもの居場所「れんが」の取組を視察しました。また、スタッフの方々と意見交換を実施しました（19ページ参照）。

課題として、①対象者以外の利用、②対象者がこういった形でこの施設へ足を運んでくれるか、③運営資金の確保等を挙げられておりました。

今後は、子供を受け入れる体制を充実させるとともに、親を支える体制も充実したい、利便性の観点から同様の施設を各地区に増やすことができれば理想的との展望を持っておられました。

イ 社会福祉協議会「おもちゃ図書館」

令和2年1月に、施設を利用する保護者が抱える子育て等に関する課題等を聞き取るため、子どもたちの人間性豊かな成長を支援する取組やその保護者間の交流の場を提供している「おもちゃ図書館」の取組について研修しました。また、利用されている保護者の方々との意見交換を実施しました（19ページ参照）。

保護者間の交流場所としての機能については、移住者の交友関係の拡大にもつながる重要な役割を担っていました。また、施設を利用する保護者との意見交換を通して保護者への支援の在り方について、委員間で知見や議論を深めることができました。

ウ 熱塩加納方式学校給食

令和2年12月に、学校給食に関する食育の充実という観点から、実績のある熱塩加納方式の学校給食について研修を実施し、市内の他の地域への展開について検討を行う目的で、熱塩小学校長、熱塩加納学校給食共同調理場所長及び主任栄養技師よりその実態について説明をしていただきました。また、地場農産物の利用の高さと生産者の会との関係についても説明していただきました。マイ弁当の実践、栄養バランス、運動の必要性、食べる順序などでの肥満防止のケアを行うような食育指導の他に、保護者にも肥満防止のための説明会を行うなど、個別でフォローする機会があるなど、食育の成功例を学ぶことができました。

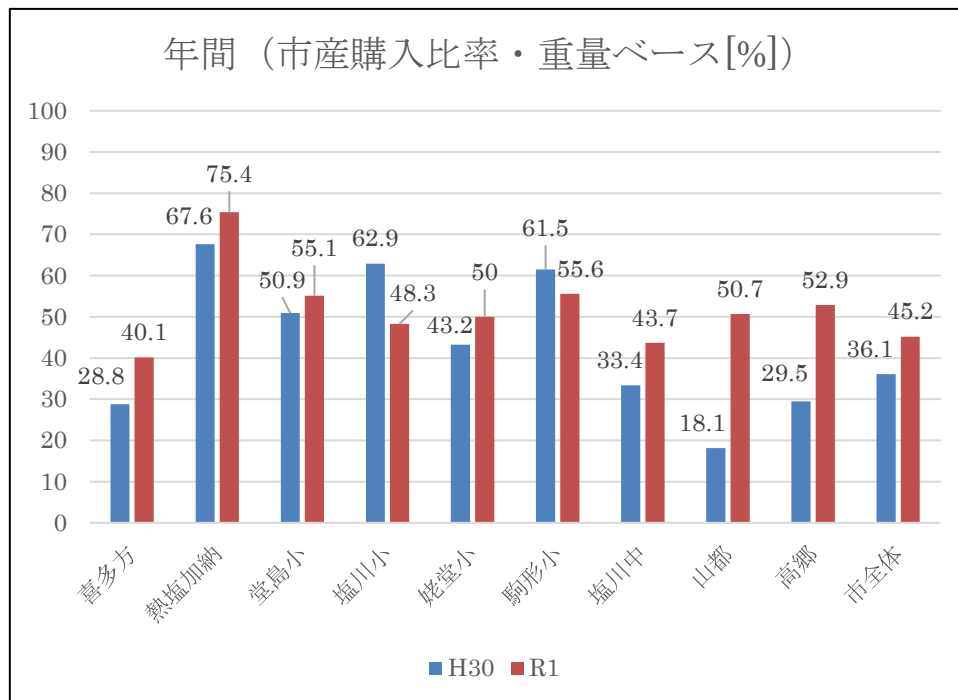


図 7 - 1 喜多方市内各地区の調理場における市産購入比率（重量ベース）

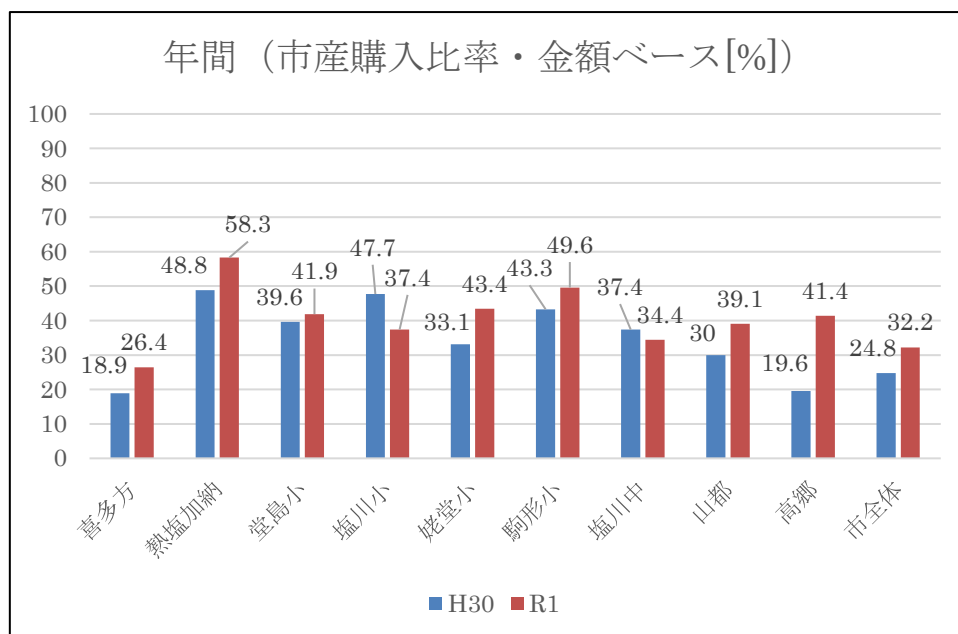


図 7 - 2 喜多方市内各地区の調理場における市産購入比率（金額ベース）

(3) 意見交換会

ア 市民と議会の意見交換会

令和元年 11 月に市内 6 会場で開催された意見交換会においては、本委員会の政策提言テーマである「子育て支援の充実」について、意見交換を行いました。様々な点について、貴重なご意見をいただきました。

《主な意見（抜粋）》

- ・市外から若い家族が移住していただける施策が必要である。特に「食の安全」「食の健康」を考え、有機農法等を基に熱塩加納方式の学校給食を取り入れることにより、若い世代（家族）の移住につなげてほしい。
- ・発達障害児の支援の充実を要望する。保育所だけでは不安で、週 1 回、会津若松市の竹田病院に通っている。専門であり安心しているが、喜多方では専門的にみてくれる施設がない。
- ・子育てや介護に携わる人への待遇を厚くして欲しい。そうすれば、都会に出ないで喜多方に残る方も増え、結婚に繋がるチャンスも増えるのではないか。
- ・民間の保育施設と市のこども園の交流を行い、内容を充実して欲しい。
- ・本市の医療体制の充実を望む。小児科はあるが、緊急時の対応（夜など）が弱い。
- ・子育てに対する事業が、どこでやっているか分かりづらいので、窓口をまとめて欲しい。
- ・保育士の数は足りているのか、児童数が増加し、保育士が不足しているならば、引退した保育士等に対応してもらえないようにできないのか。
- ・市全体でバランスのとれた場所に保育施設を作って欲しい。

※その他のご意見については、参考（18 ページ）に掲載しています。

イ 喜多方市家庭教育支援チーム“もも”との意見交換会

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”は、その活動を通じて、子育てや家庭教育に対する保護者の不安や悩みを解消し、地域全体で子育てをする環境づくりに努めており、令和2年に家庭教育支援活動に貢献した団体に贈られる文部大臣表彰を受賞しました。

そういった団体の活動をより効果的に行っていただくため、抱えている問題、また行政への希望などについて、令和2年12月に意見交換会を行いました。

《行政への要望等》

- ・他の子育て支援の団体との情報共有のためコーディネーターのような方がいればありがたい。
- ・市民活動団体の交流会はあるが、もっと内容が整理整頓されていればよいと思う。
- ・市の担当が変わり、これまで許可されていたことが不可となったことがあり、引継ぎなどをしっかりしてほしい。

※その他のご意見については、参考（20ページ）に掲載しています。

ウ 私立保育施設関係者との意見交換会

令和2年12月に私立保育施設関係者と「保育施設の定員と保育士の確保について」「喜多方市の子育て支援としての保育環境の充実のための施策について」「その他」の3つのテーマで意見交換を行いました。また、当日欠席された施設に対しては、同内容でアンケートをお願いし、回答をいただきました。

《①保育施設の定員と保育士の確保について》

- ・公立志向や都会志向が高く、採用が難しい。
- ・産休・育休の職員の補充が難しい。
- ・入所者の変動に対応するのが難しい。

《②喜多方市の子育て支援としての保育環境の充実のための施策について》

- ・保育士等処遇改善事業の継続を希望する。
- ・今回のコロナウイルス感染症対策についても言えることだが、公立と同じ情報提供をお願いしたい。

※処遇改善事業に関しては、分かりやすい説明と手続きを簡易的にしてほしいといった意見もありました。

《③その他》

- ・受け入れている子供たちが集団で小学校に入れるような配慮をお願いしたい。
- ・子供のために、親が休みをとりやすい環境・社会づくりが必要。

※その他のご意見については、参考（20 ページ）に掲載しています。

5 提言

本委員会では、「子育て支援の充実」をテーマに、これまで継続して調査・研究・検討してきた経過を踏まえ、子育てに対する市施策の方向性を明確にし、事業の見直しや拡充を図るという観点から、次のとおり提言いたします。

(1) 直営型の子育て交流・支援施設の整備

令和4年度より、ひとづくり・交流複合拠点施設内で「子育て支援」に関する各種事業が展開されることから、正規職員による市直営の子育て支援施設として位置付けること。

また、「子ども・子育てに関する相談総合窓口」として機能できるよう、本庁担当部署とTV会議システム等を利活用し、連携した対応を行うことでワンストップ化を図ること。

(2) 育児力を育めるよう子育て世代包括支援センターの全市での構築、各地区への整備

妊娠期から子育て期にわたって切れ目のない支援を各地区で実施する目的で、母子保健分野と子育て支援分野が、それぞれの機能で役割分担し、一体的にサービスを提供する子育て世代包括支援センターを市内各地区に展開すること。

(3) 子供の居場所づくりへの継続的な支援

子どもの居場所づくりと不登校の児童生徒に対しての学習支援の充実を図るため、すでに事業を委託している民間事業団体が、今後も持続的な運営ができるよう環境整備面も含めて継続的な支援をすること。

(4) 家庭教育支援チームと福祉機関の連携による支援体制の整備

家庭教育支援チーム等と子育て支援などの福祉関係機関等との連携体制を構築し、保護者のニーズを踏まえた相談の支援体制、とりわけ相談の共有化が図れるよう、SNS

等を活用した双方向の相談支援体制を整備すること。

(5) 私立保育施設における保育士の重点的確保

本市の私立保育施設における保育士の重点的確保を実現するため、公定価格における人件費の引上げを国に要望するとともに、確実に保育士の賃金引上げに反映されるよう、事業者へ働きかけを行うこと。

また、私立保育士等の職員の処遇改善事業の継続及びさらなる充実を行うこと。

さらに、本市出身者が、保育士資格取得後にUターン就職しやすくなるような奨学金を個別に設けるとともに、市内の私立保育施設で働きながら、通信教育や自主学習によって、保育士の資格取得を目指す方への柔軟な補助を行うこと。

潜在保育士の掘り起こし、保育施設等への現場復帰に向けた支援事業への取組も行うこと。

(6) 成長期の食育指導と地場産食材の安定的供給による安心で安全な学校給食の実践

児童生徒が学校給食を通じて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、豊かな人間性を育めるよう、栄養教諭の配置促進や食に関する指導や肥満防止策などを全市的に行うこと。

また、地元の地域の方々によって生産された野菜や米などを通して「感謝」と「いのち」の大切さを学び、道徳心の醸成を促すためにも、全市的に安心で安全な学校給食の実践が行えるよう、地場産食材の安定的供給を図るため、生産者の確保と後継者の育成支援を積極的に行うこと。

6 おわりに

今回の子育て支援の充実に関する政策提言にあたり本常任委員会では、2市の事例を調査するとともに、市内の2施設の視察、それから市内の2団体との意見交換会、並びに熱塩加納方式の学校給食について研修を実施してまいりました。

その内容については、前述のとおりですが、意見交換会については、様々な団体が、市や議会に対して対話を望んでいること、そういったニーズは我々が考えているよりも高いと感じました。そういった民間団体等とのコミュニケーションを高めた上で、官民の連携に取り組んでいただきたいと思います。また、関係部局におかれましては、定期的な会議のほか、個人や団体との意見聴取の機会を設け、様々な立場の方からの意見を伺っていただきたいと思います。

本市においては、平成27年度よりこども課が新設され、こども課に子ども・子育て総合相談窓口、保健課に子育て世代包括支援センターが設置され、また令和3年度には子ども家庭総合支援拠点の立ち上げが予定されており、加えて、喜多方子育て支援ポータルサイトや子育てガイドブックの発行など子育て世代の相談や手続きについての情報は充実し、利便性も向上していると考えますが、一方で、子育て支援関係の窓口や情報が雑然としているような印象も受けますので、今後も市民にしっかり認識されるような周知、市民目線での事業の遂行や立案、支援体制等が不可欠であると考えます。

むすびに、子育て支援の在り方については、今後も少子化の進行や保育需要の高まり、その他の社会的要因によって、あるべき形や求められる内容などの変化も予想されますが、それらの多様化・複雑化する制度やニーズに対応し、子育てしやすい環境の整備に努めていただきますようお願いするとともに、本提言が本市の子育て分野のさらなる発展の一助となりますことを願います。

参考

《市民と議会の意見交換会（主な意見）》

市民と議会の意見交換会における主な意見

（本文掲載）

- ・市外から若い家族が移住していただける施策が必要である。特に「食の安全」「食の健康」を考え、有機農法等を基に熱塩加納方式の学校給食を取り入れることにより、若い世代（家族）の移住につなげてほしい。
- ・発達障害児の支援の充実を要望する。保育所だけでは不安で、週1回、会津若松市の竹田病院に通っている。専門であり安心しているが、喜多方では専門的にみてる施設がない。
- ・子育てや介護に携わる人への待遇を厚くして欲しい。そうすれば、都会に出ないで喜多方に残る方も増え、結婚に繋がるチャンスも増えるのではないかな。
- ・民間の保育施設と市のこども園の交流を行い、内容を充実して欲しい。
- ・本市の医療体制の充実を望む。小児科はあるが、緊急時の対応（夜など）が弱い。
- ・子育てに対する事業が、どこでやっているか分かりづらいので、窓口をまとめて欲しい。
- ・保育士数は足りているのか、児童数が増加し、保育士が不足しているならば、引退した保育士等に対応してもらえるようにできないのか。
- ・市全体でバランスのとれた場所に保育施設を作って欲しい。

（本文掲載外）

- ・給食費半額補助制度が始まり、負担が減り助かった。
- ・様々な事業の内容の周知と保育を応援している企業のPRをして欲しい。
- ・子育て事業の目玉政策を作り、人口減少を食い止めて欲しい。
- ・子育て支援が手厚くなり過ぎているのではないかと考える。批判はあるかもしれないが、本気で子育てしようと思えば同居すべきではないか。支援するお金が本当に子供に使われているのかと思う。

《子どもの居場所「れんが」のスタッフの主な意見》

子どもの居場所「れんが」のスタッフの主な意見

- ・親への支援だけでなく、子どもたちへの直接的な支援の充実が必要である。
- ・子育ての支援策として対応策も大事だが、予防策にも力を入れていただきたい。
- ・子育て環境が昔とは大きく異なることから、子どもと親御さんが寄り添える場や親御さん同士での情報交換できる場の充実を図る必要がある。
- ・学校等においても家庭を支えられるような体制が構築できればよいのではないかな。
- ・地域ごとに「れんが」のような施設を設置できればよいのではないかな。
- ・子育てに関連する他団体の皆様との交流（意見交換等）する機会を創出してほしい。

《おもちゃ図書館利用者の主な意見》

おもちゃ図書館利用者の主な意見

- ・無料で週2回実施している施設が、近隣ではないので非常にありがたいです。こども園が終わった後にも来たいと思いますので、午後も開設していただけるとありがたいです。
- ・昨年、市外から引っ越して来たのですが、この施設を通じてお母さん方と接する機会が増え、交友関係が広がり、非常にありがたい。
- ・塩川おもちゃ図書館のイベントで、イベントの際にプロのカメラマンが無料で写真撮影をしていただき、非常に評判がよかった。
- ・二本松市や山形県の高畠町にある子どもの遊び場が非常にお母さんたちから評判がよいので、議員さんも一度行ってほしい。また、新たに建設予定の複合施設では、子どもたちが遊べる年齢別のエリアを作ってほしい。屋根付きの屋外遊び場があるとよいのではないかな…。
- ・子どもが入退院を繰り返しており、病後児保育を利用しているが、市内で利用できる施設（保育園）が1か所しかなく、専門の看護師がいない場合は利用できないことからそのような施設を増やす必要があると思う。
- ・0歳児の受け入れ枠を拡充し、4月からではなく途中入所の枠をできるだけ増やしてほしい。また、小学校の学区を見据えて、近くのこども園に入りたかったが、入ることができず、今は待機状態となっています。

《喜多方市家庭教育支援チーム“もも”との意見交換会の主な意見

》

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”との意見交換会の主な意見

- 文部科学大臣から表彰を受けるにあたり、授賞式に参加した際、ほとんどの団体の方が行政と共に参加されていた。行政と家庭教育支援チームが何かうまく融合しているようで羨ましく感じた。
- 家庭と地域と学校がうまく連携して子どもを育てるのが一番ベストだと思う。
- 様々な子育ての団体と情報が共有できたら、我々の活動ももっと膨らますことができたり、連携して新たな取り組みができるのではないかな。そういったコーディネーターがいればありがたい。
- 同じような目的、保護者の応援であるとか、そういったことの目標を一にする、教育委員会とはまた別な所管のところとの交流が持てたらと考えている。

《私立保育施設関係者との意見交換会》

テーマ1：保育施設の定員と保育士の確保について

- 保育士がそろっていても園児数の定員割れをしてしまう年度もあり、給与面で困っていた時があったので、それがないように配置していただきたい。数年前から保育士の採用も難しく、産休、その他欠員の際の補充の件も市でも協力していただきたい。
- 近年、保育士の採用が大変厳しい状況になっている。保育士の不足によって、園児定数を減らし、園児を減らせば、待機児童が多くなる現状。
保育士経験者の皆さんも一旦家庭に入ってしまうと、なかなか復帰は難しく、資格を生かさず仕事をしておられる方がとても多い。当園もハローワークに1年間採用希望を出しているが、未だに見つかっていない。
- 産休、育休を取得する職員の補充が難しい。また、新規での採用が難しい。
- 公立と私立の給料の差があったり、また私立と公立の仕事面での負担を考え、実習生はほとんど公立を受けるようである。

テーマ2：喜多方市の子育て支援としての保育環境の充実のための施策について

- 国の処遇改善加算には、1と2があるが、2については、ストレートに保育士に直接いくが、1については、なかなか直接保育士の手元に届かないと感じており、給付の方法を改善していただきたい。
- 処遇改善事業は、とてもありがたいと感じており、継続をお願いしたい。
- 今回の新型コロナウイルスに関する情報についてもそうだが、公立と同じ形での情報提供をお願いしたい。

テーマ3：その他

- こういった懇談会を定期的を開催してほしい。
- 子どもの救急医療体制を充実してほしい。
- 保育士が掛かりきりになるような子どもについては、経営的に余裕のある公立で対応してほしい。
- 病児保育を充実させるよりも、親が子どもの看病のために休んでも仕事に支障が出ないようサポート体制を整えることを充実させてほしい。子どものために休みが取りやすい環境・社会づくりが大切だと思う。
- 子どもたちが集団で同じ小学校へあがれるような配慮をお願いしたい。

喜多方市議会 文教厚生常任委員会

委員長 上野 利一郎

副委員長 菊地 とも子

委員 矢吹 哲哉

委員 山口 文章

委員 蛭川 靖弘

委員 長澤 勝幸

委員 佐原 正秀